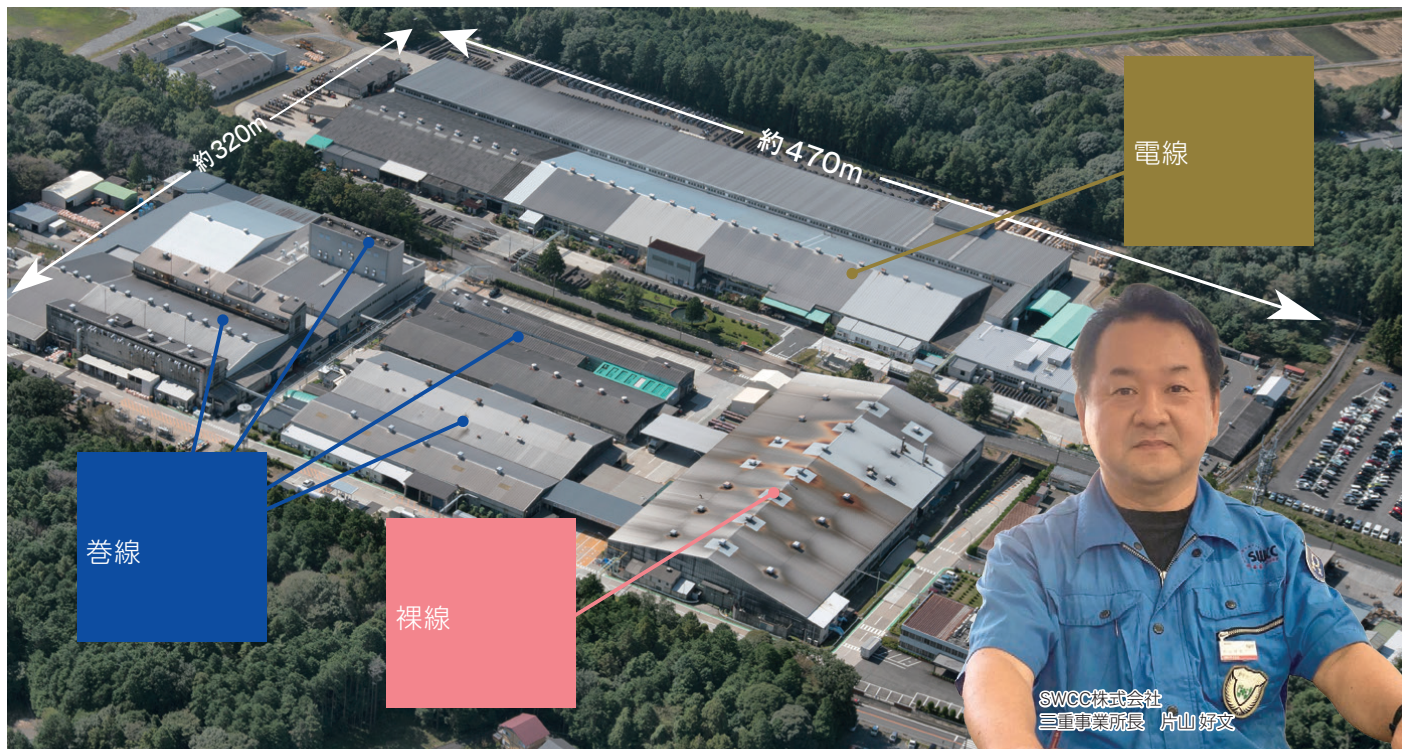


ようこそ！ SWCC 三重事業所へ。



SWCC株式会社
三重事業所長 片山好文

三重事業所が、
地球環境のためにしていること。

三重事業所が、
地域社会のためにしていること。

三重事業所の概要

所在地	三重県いなべ市北勢町麻生田1326番地の1 〒511-0427 TEL (0594) 72-3111(代)
工場敷地面積	約165,000㎡
従業員数	約400名
関連会社	SWCC 株式会社 SFCC 株式会社 株式会社ロジス・ワークス

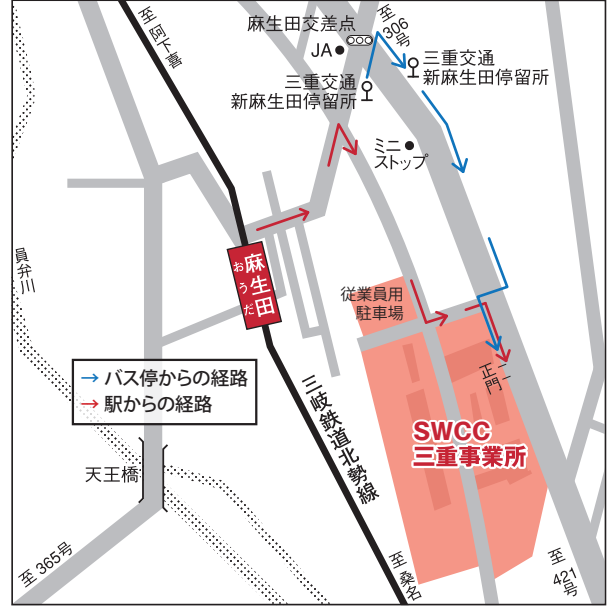
三重事業所の歴史

1967年	第一期工事着工
1968年	操業開始
1971年	被覆電線工場竣工 横巻線工場竣工
1975年	ディップ・フォーミング・システム稼働
1979年	巻線製造設備の炉温制御に、 多変数制御理論を導入
1986年	59ヶより転位平角より線機稼働
1988年	JIS C 3101, 3102取得
1991年	横巻線工場増設
1996年	ISO 9001取得
1998年	被覆線工場増設 ISO 14001取得
2001年	(株)フジクラと巻線事業の共同事業会社設立 巻線製造部門 (株)ユニマックへ移管
2003年	被覆線製造部門 吉田電線(株)へ移管
2006年	持株会社体制化により分社 「昭和電線電纜(株)」 →「昭和電線ケーブルシステム(株)」 「昭和電線ビジネスソリューション(株)」
2009年	吉田電線(株)を 昭和電線ケーブルシステム(株)が吸収合併
2013年	被覆線 月産2,000t達成
2014年	アルミより線工場稼働開始
2017年	昭和電線ビジネスソリューション(株)を 昭和電線ケーブルシステム(株)に統合
2019年	(株)フジクラと巻線事業の共同事業解消 (株)ユニマックより昭和電線ユニマック(株)に社名変更
2020年	無酸素銅線 月産3,000t達成
2022年	被覆線製造部門 SFCC(株)へ移管
2023年	昭和電線ケーブルシステム(株)と昭和電線ユニマック(株)を SWCC(株)に統合

三重事業所の製品

- 裸線
荒引銅線、電気用銅線、無酸素銅線
- 巻線
エナメル線、横巻線
- 電線
架橋ポリエチレン絶縁電力ケーブル、制御ケーブル、
ビニル絶縁ケーブル、屋外絶縁電線

地図・交通アクセス



三重県いなべ市北勢町麻生田 1326 番地の 1

車でお越しの方は

- ◎東名阪自動車道桑名ICより
国道421号を北西へ約13km
- ◎東海環状自動車道東員ICより
北西へ約10km
- ◎大安ICより北西へ約4km
- ◎いなべICより南東へ約4km

電車・バスでお越しの方は

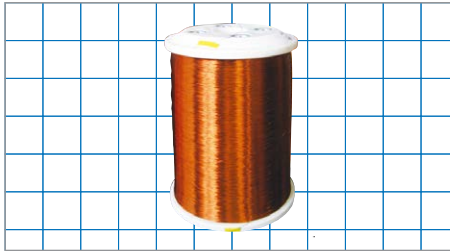
- ☆名古屋駅より
近鉄名古屋線(急行)で桑名駅まで20分
JR関西本線で桑名駅まで34分
- ◎桑名駅(西桑名駅)より
三岐鉄道北勢線で麻生田駅まで52分
麻生田駅より徒歩10分
- ◎桑名駅(桑名駅前)より
三重交通阿下喜行きバスで新麻生田停留所まで45分
新麻生田停留所より徒歩10分

CAT. NO. 00-22-21 26.6 K

こんな製品作ってます。

ニーズに合わせた製品を提供 巻線

巻線は、発電機・変圧器・モータ等
電気機器の幅広い製品に使用される電線で、産業界の米とも言えます。
主に車載電装部品、重電機器に使用する製品を製造しています。

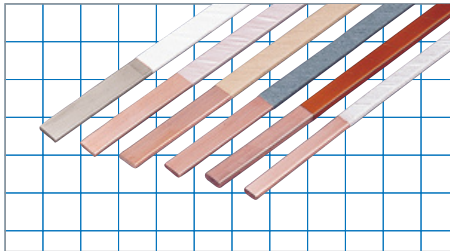
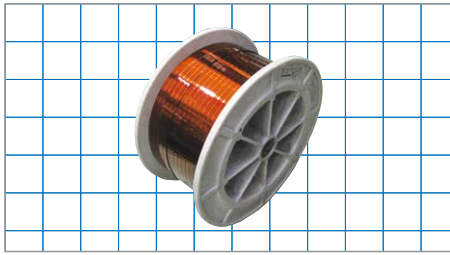


> エナメル線

導体(銅・アルミ)に合成樹脂をベースとした絶縁皮膜を施した製品です。
各種モータ・変圧器・電気回路に使用されます。
最近、高性能モータ・電子部品用として導体が角形状の平角線の需要が増加しています。

【当社製品の主な用途】

- 車載電装部品(モータ、リアクトル、インバータ等)
- 重電変圧器
- 各種モータ・発電機・変圧器
- 電子部品(インダクタ)

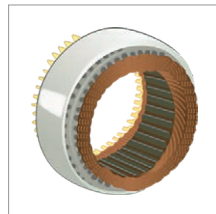


> 横巻線

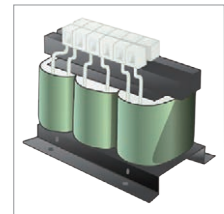
導体(銅)に紙、フィルムなどを巻き付けて絶縁とした製品です。
発電機・変圧器など電力関連部品の巻線として使用されています。

【当社製品の主な用途】

- 電力トランス(大型・小型)
- 発電機
- 大型モータ



車載電装部品(モータ・リアクトル・インバータ 等)



重電変圧器

> 担当者のひとこと

創業当時から製造している巻線は、独自技術の組み合わせにより進化を遂げています。
今後もサステナブルで高性能な巻線開発を継続し、より良い社会の実現に貢献していきます。



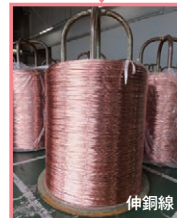
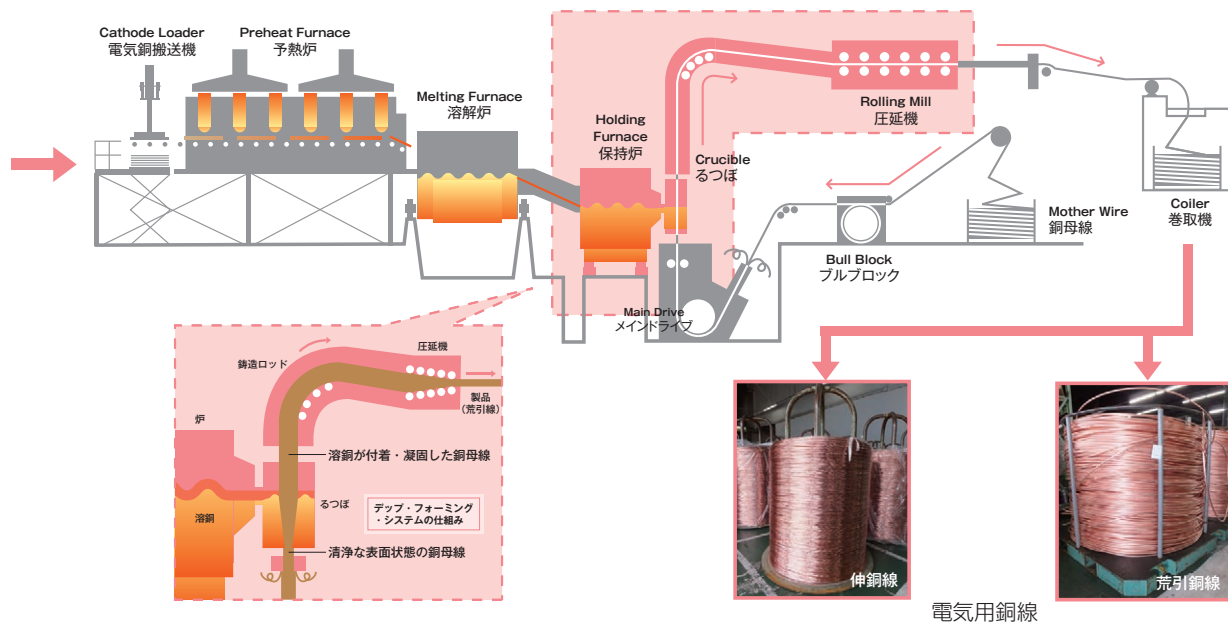
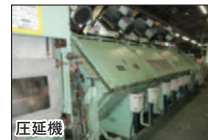
SWCC株式会社
通信・コンポーネンツ事業セグメント 線材巻線部 三重巻線課 課長 兼 MG-PJ PROJECT長 平井 一臣

こんな製品作ってます。

電線・ケーブルの元材を作る 裸線

各種電線・ケーブル・巻線の元となる銅導体を、お客様のニーズに合わせた形で供給しています。

ディップ・フォーミング・システム(連続铸造圧延設備)の工程図



電気用銅線

>ディップ・フォーミング・システム (DIP)とは?

真空中で清浄な表面状態の銅母線の周囲に溶銅を付着凝固させ、より大きな断面積を持つ荒引銅線を製造するシステムです。このシステムは、電気銅板及び銅母線を投入する段階から荒引銅線が出てくるまでの全工程を、雰囲気ガス及び真空中で行うことにより、溶銅、铸造・圧延ロッドを酸化性の環境から完全に隔離します。日本では、当社のみが、このシステムで荒引銅線を製造しており、厳選された電気銅板及び銅母線を使用し、製造環境を厳しく管理することにより、高品質の無酸素銅を製造することも可能です。

特長

- 連続した長尺の荒引線の製造が可能
- 無酸素銅 (JIS H 2123, C 1020) の製造が可能
- 水素脆化が起こり難い
- 靱性、展延性、柔軟性があり、加工性に優れている
- 銅線表面がなめらかであるため、銅粉の発生が少ない

>担当者のひとこと

三重事業所の「ディップ・フォーミング・システム」は1975年に操業を開始(湯入れ)し、その後は1日も完全停止させることなく50年が経過しましたが、IoTを活用した最新技術なども活用し更なる進化を遂げていきます。

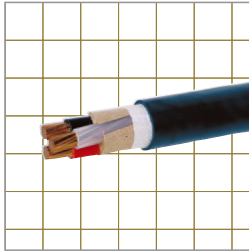


SWCC株式会社
通信・コンポーネンツ事業セグメント 線材巻線部 三重線材課 三輪 俊策

こんな製品作ってます。

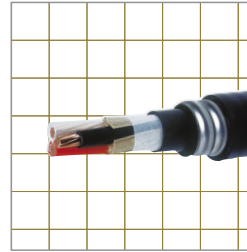
多彩なケーブルを製造 電線 by SFCC 株式会社

お客様のさまざまな使用用途、場所、
目的に合わせた電線・電力ケーブルを
多彩に製造しています。



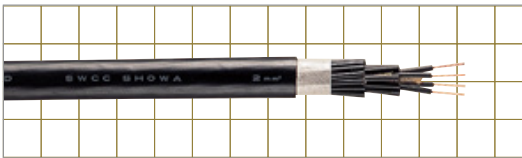
> 600V CV

工場を含めた一般建築物の
屋内配電用として使用され
ます。電気特性及び、耐熱性
に優れており許容電流を大
きくとすることができます。



> 600V CV-MAZV

CVケーブルにがい装とし
て波付鋼管を施したもので
す。工場内の配線用として地
中に直接布設することができます。



> 制御ケーブル

発電所、工場などで、機器の遠隔操作など、自動制御を
行う制御回路に使用されるケーブルです。



> ノイレックスケーブル

高圧ケーブルに近接して布設する等の誘導障害を防止する
ため、線心上に遮へい層(軟鉄テープ+軟銅より線)を設け、
より取り扱い性を向上させたケーブルです。

このような
場所で
使われて
います →



ビル・工場



制御盤



サーバールーム

> 担当者のひとこと

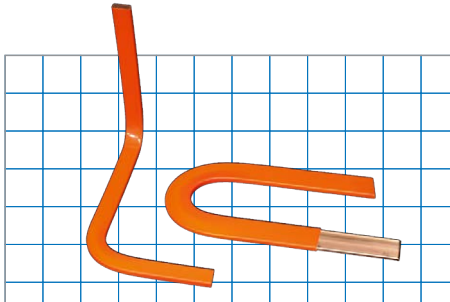
一般建設用および産業用のさまざまな電線・ケーブルを手がけ、社会インフラを支えています。蓄積された技術力と豊富な経験を活かしながら、お客様のニーズに柔軟に応えられるものづくりを目指し、常に改善意識をもって取り組んでいます。



SFCC株式会社
三重製造課 課長 渡辺 功

モビリティ開発

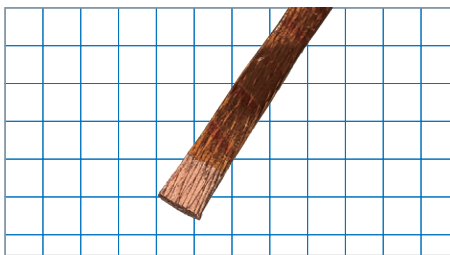
2023年4月、電動化など大きな変革期にあるモビリティ市場への貢献を目的に、当社三重事業所（三重県いなべ市）を中心拠点とした「モビリティ開発センター」を設立しました。これまで、モビリティ向けの研究開発部門は各事業セグメントで別々に進められていたことでリソースが分散していましたが、分散していた知見や技術を集約することで、今後はモビリティに必要な高機能線材へのシフトを加速させ、市場の発展や社会課題の解決に貢献します。



車載用被覆付き平角線（バスバー）

>xEV向けバスバー用被覆付平角線

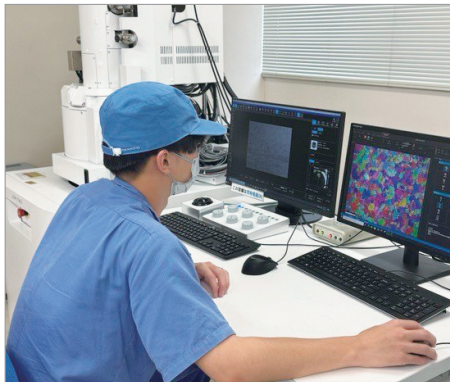
電動車（xEV）向けの電装部品として、加工性や導電性などに優れる高機能無酸素銅「MiDIP®（ミディップ）」を使った「車載バスバー用被覆付き平角線」を開発しました。xEVの普及に伴い、バスバーが電気配線の主流である高圧ハーネスに代わる部品として注目を集める中、本製品は加工性の高さにより車内の省スペース化へ貢献できる点などが特長となっています。



平角リッツ線

>平角リッツ線

リッツ線は、エナメル線を多本数撚り合わせた線のことです。通常の断面形状は丸形ですが、小スペースへの配置ができるよう、導体形状を平角形状にしました。通常の丸形と同様に高周波の電気性能が優れた導体です。



SEM 観察



モビリティ開発センター試作工場

>担当者のひとこと

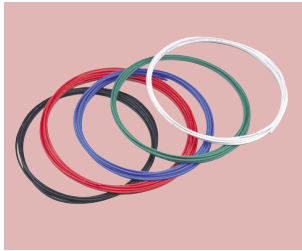
モビリティ分野の開発担当者として、私たちの使命は未来の交通手段の根幹に携わることで、人々の生活をより便利で効率的、かつ持続可能にすることだと考えています。今後の技術進展により、私たちの生活は大きく変わると思います。新しい可能性に向けて邁進していきます。



SWCC株式会社
通信・コンポーネッツ事業セグメント モビリティ開発センター センター長 光地 伸明

環境配慮型製品

SWCCグループでは、製品の原材料・製造・使用・回収・解体・廃棄などの各段階で、環境への負荷低減を図ることが重要であると位置づけています。
三重事業所で取り組んでいる環境配慮型製品・技術を紹介します。



> 環境配慮型電線・ケーブル

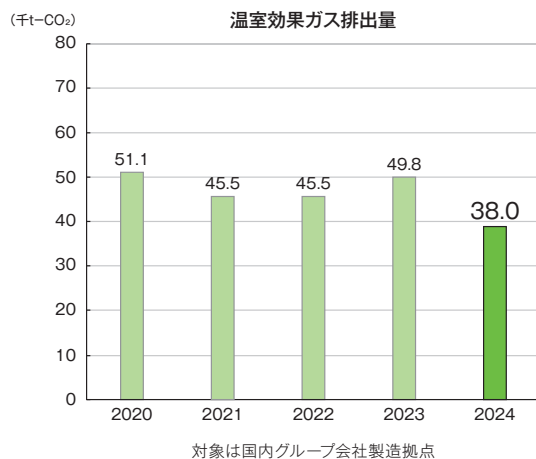
地球環境への負荷低減を図るため日本工業規格 (JIS) に対応した低圧電力用、制御用の各種 EM※電線・ケーブルを開発し、製造しています。これらは従来の塩化ビニルケーブルにはない次に示す特長を持っています。

※EMとはエコマテリアル (Eco-Material) および耐燃性の意味です。

- 被覆材にハロゲン元素を含まないため、
焼却や火災時などに有害なハロゲン ガスの発生がない。
- 被覆材に重金属を含まず、土壤汚染のおそれがない。
- 燃焼時の発煙量が少ない。
- 腐食性ガスを発生しない。
- 耐熱温度が高いため品種によっては許容電流を大きく取れる。
- 被覆材料がポリエチレン系に統一されているため、リサイクル性が良い。

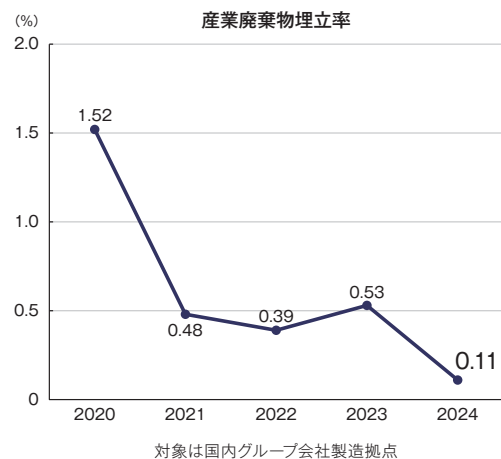
地球温暖化防止 (CO₂排出量の削減)

第1種エネルギー管理指定工場である三重事業所では、SWCCグループのボランティアプランに基づいて、省エネルギーによるCO₂排出量の削減に取り組んでいます。今後も省エネ活動を推進するとともに、創エネにも取り組んでまいります。



資源の有効活用 (廃棄物量の削減)

SWCCグループは、事業所で発生する廃棄物総量を減らすことにより、資源の有効活用を推進しています。更なる3R+Renewableにより、廃棄物の削減を目指します。また、マテリアルリサイクル、サーマルリサイクルを推進し、最終処分量の削減にも取り組んでまいります。



環境自主行動計画(第7次環境自主行動計画)

SWCCグループでは、2021年度から2025年度までの環境自主行動計画を定めて活動しています。
環境自主行動計画の到達目標または指標、および2024年度実績は下表に示す通りです。

環境目的	項目	到達目標または指標	2024年度実績
地球温暖化防止	省エネルギー(CO ₂ 削減)	2013年度実績を基準として、2025年度までに主要製造拠点のCO ₂ 排出量(Scope1+Scope2 ^{*1} 、オフセット分を含む)を50% ^{*2} 以上削減する。	2013年度実績より50%削減
資源の有効活用	廃棄物の排出量削減	2018年度実績を基準として、2025年度までに全拠点の排出量を20%削減する。	2018年度実績より21%削減
	資源循環の推進	2018年度実績を基準として、2025年度までに主要製造拠点より排出される廃棄物の最終処分量(埋立量)を90% ^{*3} 以上削減する。	2018年度実績より90%削減
	プラスチック使用量の削減	『プラスチック使用ガイドライン』による。	被覆材・包装材の3R推進などの改善を実施
水資源の有効活用	水使用量の削減	2018年度実績を基準として、2025年度までに水使用量を35% ^{*4} 以上削減する。	2018年度実績より35%削減
その他	有害化学物質の使用削減	『グリーン調達ガイドライン』による。	VOC ^{*5} 排出量は2023年度実績比で25%増加
	環境貢献製品の拡大	『環境貢献製品ガイドライン』による。	環境貢献製品8件登録
	生物多様性への貢献	『生物多様性の保全ガイドライン』による。	<ul style="list-style-type: none"> 改正ガイドラインを適用 地域共生、生態系保護の活動推進

- ※1 Scope1:事業者みずからによる温室効果ガスの直接排出
Scope2:他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
※2 当初目標値45%を達成したことにより目標値を引き上げた
※3 当初目標値85%を達成したことにより目標値を引き上げた
※4 当初目標値25%を達成したことにより目標値を引き上げた
※5 VOC:揮発性有機化合物(Volatile Organic Compounds)の略称

> 担当者のひとこと

自然豊かなここ、いなべ市で生産活動をしている当事業所は、これまで地球温暖化防止活動や環境負荷低減の活動を続けてきました。これからも地域の方々をはじめ、当事業所を取り巻く全てのステークホルダーと共に環境保全活動を推進していきます。



SWCC株式会社
三重事業所 環境管理責任者 兼 通信・コンポーネンツ事業セグメント 線材巻線技術部 部長 足田 靖成

環境負荷低減を目指したオンサイト型自家消費太陽光発電の導入

2025年4月1日から、三重事業所内においてオンサイト型自家消費太陽光発電サービス(PPAモデル/第三者所有モデル)を導入しました。具体的には、屋根スペースを提供し、「SMFLみらいパートナーズ」が太陽光発電設備を設置しました。この設備は出力1,111kWで、年間約170万kWhの発電量になります。発電した電力の全量を購入し、事業所内で自家消費しています。この取り組みは、国が推進する自然エネルギーの普及・拡大に寄与し、社会全体の環境負荷低減に貢献しています。



三重事業所に水素燃料電池自動車(FCV)を導入し、運用を開始しました。

三重事業所が立地するいなべ市では、国や企業、団体、学校・研究機関、住民などと連携して、地方からSDGsを推進し、地域の課題解決と地方創生を目指していくという考え・決意を示す「SDGs日本モデル」宣言に賛同し、積極的にSDGsを推進しています。

その取り組みの一環として、脱炭素社会の実現に向け、温室効果ガスの排出削減を図ることを目的に、市防災拠点(北勢町阿下喜)に水素ステーションを設置し、市内企業のFCV購入費用の一部を補助することで、市内におけるFCVの普及を促進しています。

SWCCにおいても環境配慮型自動車への移行を進めており、今回三重事業所では本助成金制度を活用して、水素燃料電池自動車(FCV)を導入しました。



水質管理

伊勢湾総量規制は、伊勢湾に流れ込む汚濁物質の総量を制限する制度で、赤潮などの海洋汚染を防ぎ、海の環境を守るために導入されました。規制対象となる項目は、①COD(化学的酸素要求量)、②窒素含有量、③りん含有量で日々測定し、工場から排出される排水の管理を行っています。



安全に働けるために取り組んでいること。

各種パトロールの実施

「不安全な行動」、「不安全な状態」は無いかパトロールを実施し、「先取り安全」で災害を未然に防ぐことができるよう取り組みを行っています。



各種講習会の開催

安全衛生教育の実施により、一人一人の「意識・知識」の向上を図り、災害・疾病を防ぐ取り組みを行っています。



健康セミナーの開催

健康は最大の資本です。食事・運動・メンタルケアなど、幅広いテーマを取り上げ、すぐに実践できる健康習慣など皆さんの健康づくりをサポートします。



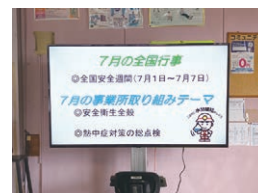
安全衛生活動診断の実施

SWCCの安全文化を構築し、労働災害を撲滅・低減させることを目的に部門の安全衛生レベルを見える化することで、安全・安心な職場づくりを目指しています。



安全啓蒙の実施

安全意識の向上に向けて安全衛生についてモニターを活用し啓蒙を行い、従業員が日常的に目にすることで、安全への意識を自然と高める環境づくりを目指しています。



> 担当者のひとこと

「ご安全に」を合言葉に、働く人が健康で安全な職場環境づくりを目指し「安全はすべてに優先する」を基本に、全員参加の安全衛生活動を進めています。



INABE SDGs 4T PROJECT

いなべ市は、日常の生活・体験から気づくSDGsの取り組みを実施しており、Touch「触れる」Think「考える」To make「つくる」Tell「伝える」を通して市民と企業が一体となったプロジェクトに参加しています。



理工チャレンジ(リコチャレ)

内閣府男女共同参画局主催の、女子中高生・女子学生が理工系分野に興味・関心を持ち、将来の自分をしっかりイメージして進路選択(チャレンジ)する取り組みに参加しています。



公道自転車レース 「ツアー・オブ・ジャパン」協力

いなべ市内で開催される「ツアー・オブ・ジャパンいなべステージ」に協賛し、企業ボランティアとして交通規制員協力を行っています。



スポーツ少年野球大会

北勢町には4つの小学校があり、昔からそれぞれのスポーツ少年野球が盛んです。そこで、彼らを応援するサポーターとして、野球大会を全面的に支援しています。



事業所周辺の清掃活動

地域への美化活動として、いなべ市市道のカーブミラーや会社周辺の清掃を定期的に行っています。



納涼祭

夏季休暇前の夕方に、地元の自治会の皆様も招待して納涼祭を開催しています。



職場体験学習・工場見学

近隣中学校の職場体験学習や小学校の工場見学を積極的に受け入れています。



北勢中学校職場体験



小学生職場見学



小学生見学

ハンドルキーパー指定式

地域警察署の交通安全活動に賛同し、飲酒運転の追放を推進。



麻生田交差点立哨

三重事業所近くの麻生田交差点にて通学中の児童の安全活動を実施。



いなべSDGs推進パートナーに加入

いなべ市と連携してSDGsの活動に取り組んでいる、SDGsに力を入れている企業や団体を「いなべSDGs推進パートナー」として認定する制度を始めました。

SWCC株式会社 三重事業所は令和5年に認定されました。



フードドライブ

近隣Family mart 8件を訪問し、一般市民から寄付された食料品を回収し、社会福祉協議会に届けます。

